

News Release

報道関係者各位

2021年6月30日

日本CSO協会 会長 阿部 安孝

「わが国のCSO事業に関する実態調査 -2020年度-」の概要

2020年10月時点の稼働コントラクトMR数は3,292人で、全MRに占める比率(アウトソーシング率)は5.8%で推移、CSO活用企業数は126社に

日本CSO協会では、2011年より国内CSOにおける医薬品のマーケティング・販売に係る事業実態を調査しており、この度、2020年度のCSO市場規模[稼働コントラクトMR数、全MRに占める比率(アウトソーシング率)、およびCSO活用企業数]を発表しました。

2020年10月時点の稼働コントラクトMR数は3,292人(△前年比4.4%)で、ここ数年、薬価制度抜本改革等を背景として全MR数が減少傾向にあり、CSOの活用も調整局面にある中、本年度はコロナ禍による受診抑制等も影響したと考えられます。

一方で、近年は、新薬上市時等における従来型のオンデマンドでの活用に加えて、営業・マーケティング体制の最適化に伴い、人件費を変動費化し、フレキシブルリソースとしてCSOを一定比率継続して活用する欧米型の動きも見られるようになっており、全MRに占める比率(アウトソーシング率)は昨年と同じ5.8%で推移しています。

また、CSO活用企業数は、製薬企業に留まらず、医療機器企業や医療機関(病医院・薬局)など、広くヘルスケア関連企業へ市場のすそ野が拡大している状況を受けて、過去最多となった直近2年からは4社減となったものの、126社と高い水準で推移しています。

世界的に医療・ヘルスケアを取り巻く環境が大きく様変わりする中、CSO発祥のイギリスをはじめとする欧米諸国では、事業環境の不確実性に対応し、経営の柔軟性を高めるアプローチとして、アウトソーシング率は10%超に至っています。

わが国でも、1998年のコントラクトMR事業の開始以来、顧客ニーズが高度多様化し、CSOの活用方法はより戦略的なものへと進展しており、MSL^{*1}やエデュケーション・ナース^{*2}などの専門職、フィールドマーケター、地域包括ケアシステムの推進を支援する職種など、MR以外の新たな担い手も活躍するようになってきました。

また、特定の製品や疾患領域、エリア等を包括的に受託するCSOマネジメント型サービスをはじめとして、CSO独自のノウハウを活用し、営業・マーケティングからメディカル領域にわたる幅広いサービスが展開されています。

今般のコロナ禍を契機にさまざまな“ニューノーマル”が加速している中、今後、国内市場におきましても、CSOの役割の深化・拡大とともにフレキシブルリソースとしてのさらなる活用を促進し、欧米同様のアウトソーシング率(10%超)を目指してまいります。

日本CSO協会は、引き続き、変革する医療・ヘルスケア産業のパートナーとして、CSOとコントラクト人財のより一層の価値向上に努め、患者中心の医療・ヘルスケア実現に貢献いたします。

*1. メディカル・サイエンス・リエゾン: 疾患領域やその研究において指導的立場である医科学専門家(KOL/KTL: キーオピニオンリーダー/キーソートリーダー)に対し、医学的・科学的見地から情報活動を推進

*2. 臨床経験のある看護師が実践的にアウトカム向上を支援

「わが国におけるCSO事業に関する実態調査 -2020年度-」の概要

【調査対象】 日本CSO協会に所属するCSO企業5社

【調査事項】 CSO事業の動向、CSO企業およびコントラクトMRの状況

- CSO市場規模の推移(コントラクトMR数、アウトソーシング率、CSO活用企業数)
- 活用目的別、疾患領域別にみたコントラクトMRの活用動向 ほか

【調査時期】 調査時点:2020年10月1日 調査期間:2020年10月~2021年1月

お問い合わせ先 日本CSO協会 広報・マーケティング運営委員会 光山

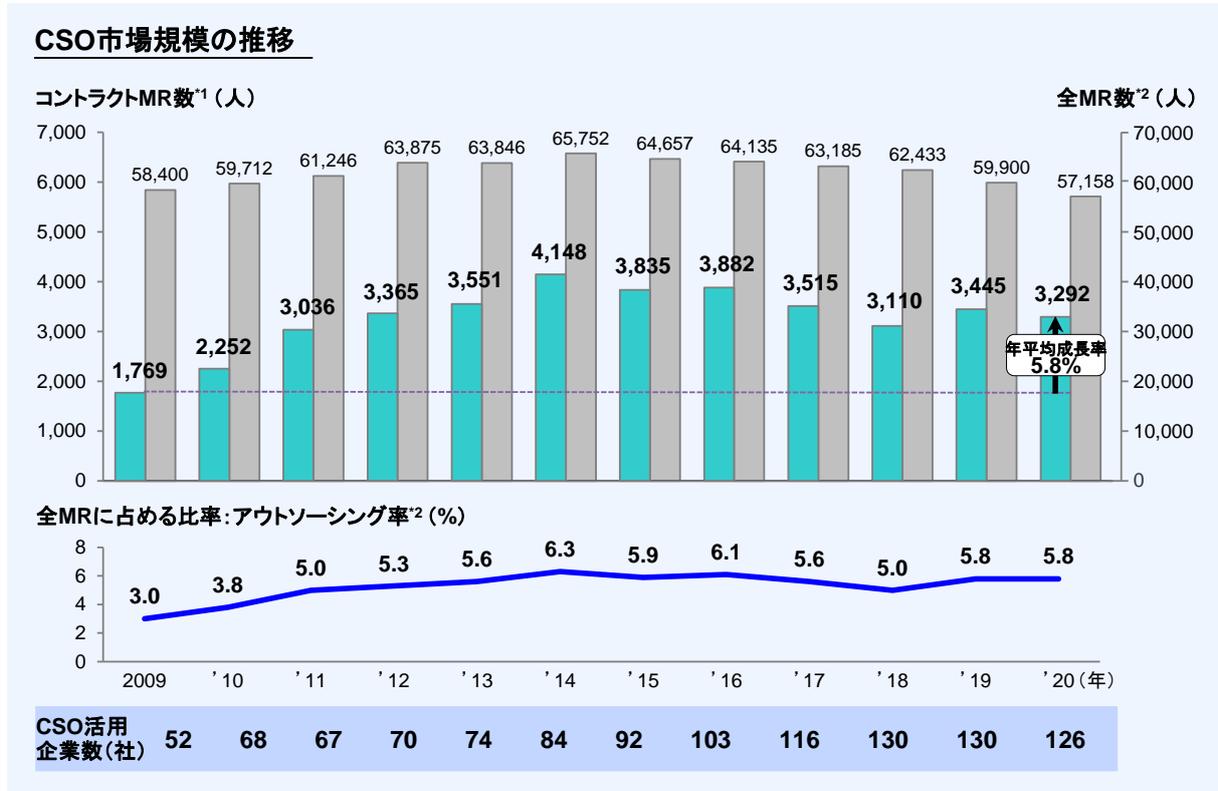
メール: info@jcsOA.gr.jp (ウェブサイト: <https://www.jcsOA.gr.jp/> 内) 電話: 080-4089-5190

ロゴマークの4つの輪は、医薬品など産業界、医療現場、患者さん、そしてCSOをモチーフにしたもの。

その繋がり合いを大切に、さらなる成長・発展を目指していきたいという想いを込めました。

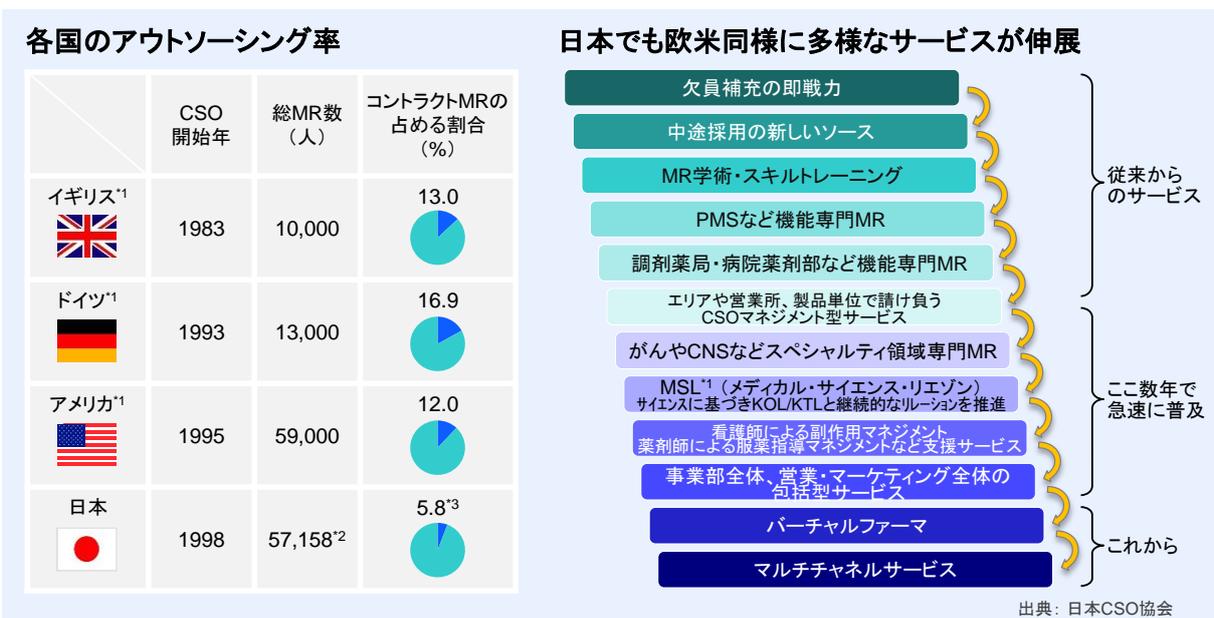
添付資料

■ 国内 CSO 市場規模の推移
 コントラクト MR 数、全 MR に占める比率(アウトソーシング率)、CSO 活用企業数



*1. MR 業務に従事する者のほか、医療機器担当者や MSL(メディカル・サイエンス・リエゾン)、エデュケーショナル・ナース等を含む。
 2009~2011 年度のコントラクト MR 数は、受注ベースの人数から実稼働数を算出。以降は実数値
 *2. 全 MR 数は、MR 認定センターによる「MR 白書」の 2008~2019 年度データ(各翌年 3 月 31 日付け調査)に基づく

■ 各国におけるアウトソーシング率と日本での CSO サービスの深化・拡大の状況



*1. 日本 CSO 協会「わが国の CSO 事業に関する実態調査 -CSO 事業 20 周年特別号-(2018)
 *2. MR 認定センター「2020 年版 MR 白書」 *3. 日本 CSO 協会「わが国の CSO 事業に関する実態調査 -2020 年度-

ロゴマークの 4 つの輪は、医薬品など産業界、医療現場、患者さん、そして CSO をモチーフにしたもの。
 その繋がり合いを大切に、さらなる成長・発展を目指していきたいという想いを込めました。

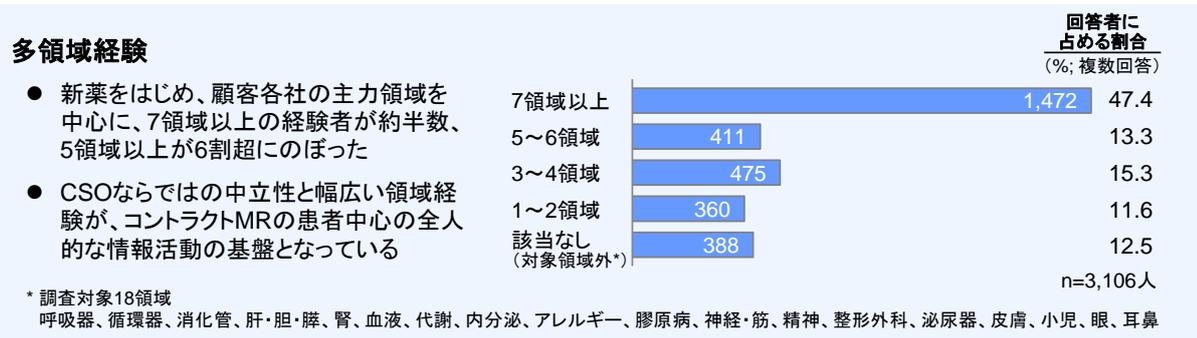
添付資料

■ コントラクト MR^{*1} の領域経験

CSO サービスの深化・拡大に伴い、多領域経験者やスペシャルティ領域の担い手が増加

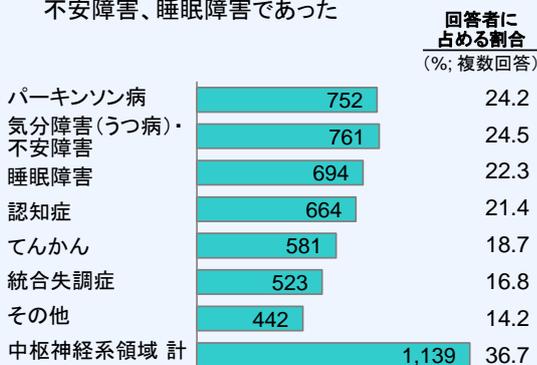
一定期間毎にさまざまな疾患領域や製品を担う CSO では、多領域経験者が多いことが大きな特徴であり、新薬をはじめ顧客各社の主力領域を中心に、7 領域以上の経験者が約半数、5 領域以上が 6 割超にのぼっている。この CSO ならではの中立性と幅広い経験は、コントラクト MR における患者中心の全人的な情報活動の基盤となっている。

また、新薬パイプラインのスペシャルティシフトを背景に、スペシャルティ領域の担い手も増加しており、中枢神経系領域の経験者は 36.7%、がん領域の経験者は 28.3%にのぼっている。



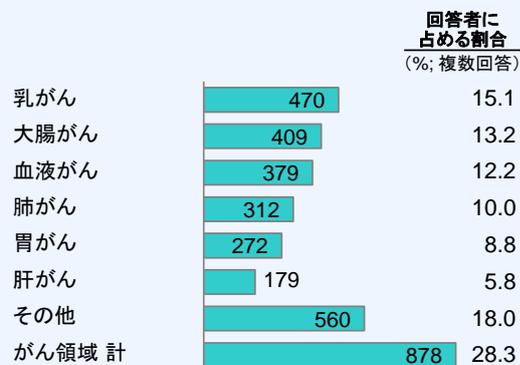
中枢神経系領域

- MR経験1年以上のコントラクトMRのうち、中枢神経系領域の経験者は36.7%であった
- トップ3はパーキンソン病、気分障害(うつ病)・不安障害、睡眠障害であった



がん領域経験

- MR経験1年以上のコントラクトMRのうち、がん領域の経験者の割合は28.3%であった
- トップ3は乳がん、大腸がん、血液がんであった



n=3,106人

CSO 協会加盟各社の 2020 年 10 月 1 日時点の在籍 MR^{*1} を対象としたアンケート調査による(有効回答数:3,292 人)。このうち 1 年以上の実務経験を有する 3,106 人において、対象 18 領域における 1 年以上の領域経験数、および中枢神経系領域・がん領域における 1 年以上の領域経験数を集計(共に前職での経験含む)。

*1. MR 業務に従事する者のほか、医療機器担当者や MSL(メディカル・サイエンス・リエゾン)、エデュケーショナル・ナース等を含む。